

平成23年9月定例教育委員会会議録

日 時	平成23年9月9日（金） 午後1時30分～3時50分	
場 所	秦野市役所西庁舎3階会議室	
出席委員	委員長 望月 國男 委員長職務代理者 加藤 剛 委員 高橋 照江 委員 内田 晴久 教育長 内田 賢司	
欠席委員	なし	
委員以外 の出席者	教育部長 水野 和成 教育部参事 大津 道雄 教育総務課長 山口 均 学校教育課長 三竹 芳則 教育指導課長兼 教育研究所長 高木 俊樹	生涯学習課長 横溝 昭次 図書館長 西野 節 公民館担当課長 園田 亨 教育総務課課長補佐(庶務担当) 入野 義郎 教育総務課庶務班主事補 川崎 倫明
傍聴者	0名	
会議次第	別紙のとおり	
会議資料	別紙のとおり	

望月委員長

それでは、ただいまから9月の定例教育委員会会議を開催いたします。

お手元の会議次第に沿って進めさせていただきます。

まず、8月定例会の会議録の承認ですが、ご質問、ご意見等がありましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。

なお、秘密会につきましては、何かありましたら、会議終了後、事務局に申し出てください。

—特になし—

望月委員長

それでは、ないようですので、会議録を承認いたします。

それでは、「教育長報告及び提案」について、お願いいたします。

教育長

よろしくお願ひいたします。

まず、資料No.1をご覧くださいと思います。「10月の開

催行事等」でございます。

まず、10月1日ですが、小学校12校が運動会を行います。広畑小につきましては、5月に既に実施をしており、上小学校は上幼稚園の運動会と合同で開催です。

次に、市民大学専門学習塾は、2日間ではほぼ申し込みが定員となる状況でございます。開講式が10月1日ということです。専門講義Aコースが「平清盛と平安時代末期の社会」、Bコースが「万葉集の世界 - 巻二を読む - 」ということで、大変人気がある状況でございます。

10月4日と18日は、毎月実施しておりますブックスタート事業でございます。7カ月健診の会場で絵本の楽しみ方をお伝えするという状況です。

10月6日から9日、第29回の子どもの市展は、小中学生を対象にしました美術・写真・書道の3部門の作品を展示いたします。この優秀作品は、はだのっ子アワードの対象となります。

10月8日の土曜日、10月1日の上幼稚園を除く幼稚園・こども園の運動会が行われます。大根幼稚園、ひろはたこども園については、10月9日、日曜日に運動会を行います。

10月12日、南が丘中学校の学校訪問は、午後1時半からでございます。もしご都合等がつけば、ご出席いただきたいと思えます。

10月13日、教職員を対象としました研修講座でございます。理科教育研修講座は教育研究所が主催でございます。

10月15日、16日は、北、大根および上公民館まつりでございます。上公民館は16日のみ開催です。

10月16日、「花音」と書いて「カノン」と読むそうですが、「花音朗読コンサート～親子で楽しむ感動の名作～」という題でコンサートを開催いたします。毎年70人以上の参加があるそうです。

10月19日は、東中学校の学校訪問でございます。先ほどの南が丘中学校と同様、もしご都合がつけば、ご参加をいただきたいと思えます。

10月19日から23日までは、第41回の秦野市展美術の部でございます。文化会館展示室・第一会議室で開催いたします。美術の後、写真、書道と続きますが、まず美術の部の市展でございます。

10月22日から、秋の読書週間に合わせ、図書館で喫茶コーナーを開設します。手をつなぐ育成会に協力をいただき、土・

望月委員長
教育総務課長

日・祝日にわたり開設し、秋の一日を楽しんでいただく計画を考えております。

10月26日、大根中学校の学校訪問、1時半からでございます。これも同様に、もしご都合がつけば、ご参加いただきたいと思います。

同日から11月3日まで、第41回秦野市展写真の部でございます。文化会館展示室・第一会議室で行います。

10月29日は、第3回いじめを考える児童生徒委員会を堀川公民館で行います。これも、ご都合がつけば、ぜひご出席いただきたいと思います。

10月31日は、本町幼稚園教育訪問です。午前9時半からでございます。管理運営上の問題等について情報交換を図るということです。これについても、ご都合がつけばご出席をいただきたいと思います。

次の資料No.2から資料No.8までについては、それぞれ担当課長から説明しますので、よろしくお願いたします。

それでは、担当課長、お願いたします。

資料No.2「(2)本町中学校昇降口棟建築工事等の請負契約について」でございます。本町中学校の校舎の改築事業については、この7月中旬に竣工式を行い、新校舎も含め、平成22年度から3年間の継続事業として取り組み、新校舎が4月に完成しました。それに伴い、もともと古い棟が2棟あったものを、1棟を解体し、そこに新校舎を建て、残っていたもう1棟も解体し、昇降口棟の建設を行います。それに伴う建築・電気・給排水の工事を8月29日に入札を行い、8月30日に仮契約を締結しております。

なお、この工事については、工事の設計額が1億5,000万円を超えますので、条例で設計額が1億5,000万円以上の工事請負、また、物品が2,000万円以上の不動産もしくは動産の買入れ、売り払いが議会に付すべき案件ということになります。この工事については、「建築工事」の設計額が1億7,665万2,000円でございますので、9月の議会で議決を得た後、9月下旬に正式に契約という段取りになります。

また、「入札及び契約について」で、平成22年度から継続費の設定をしていますが、今回の昇降口棟工事について、建築工事は株式会社関野建設、設計が1億7,665万2,000円、契約が1億5,810万3,540円、落札率が89.5%という結果でございました。電気工事については府川電機工業株式会社、給排水衛生工事については有限会社恵設備社ですが、それぞれ、

建築工事に伴って、その契約ができた時点で、電気工事、給排水についても正式契約を行い、その3工事合わせた契約額は1億8,282万5,895円、設計額に対し、88.3%の落札率でございます。昇降口棟建築工事については、9月議会が終了後、正式に契約し、来年の7月中旬までに建設工事を終わる予定でございます。

あと、本町中学校整備事業の継続費は、自転車置き場を設置する工事と、反対側の校庭に仮設昇降口がありますが、仮設昇降口を取り壊す工事を平成24年度に予定しておりまして、これで本町中学校の校舎改築事業は終了する予定でございます。

1階平面図がございしますが、主な仕様としまして、男子トイレ、女子トイレ、みんなのトイレ、エレベーターと昇降口となります。トイレについては外から使うトイレになります。エレベーターは3階までのエレベーターです。昇降口については、完成しました新校舎に1学年と2学年が入りますので、その1学年、2学年用の昇降口になります。新校舎の竣工の際にもお話がございましたが、昇降口棟を3階建てにして、各校舎、第1棟、新校舎、既存の第4棟、その間をそれぞれ水平移動のバリアフリー化を図るという予定でございます。

教育指導課長

資料No.3「夏季休業中を中心とした幼小中一貫教育の取り組みについて」を、大きく分けて2つ、ここでご紹介させていただいております。

1つ目は、今年度2年目になりました秦野市幼小中一貫教育推進検討委員会の第1回を8月12日に開催した結果でございます。本年度は、小林先生、望月教育委員長、小学校長会の府川校長、中学校長会の石田校長については、昨年度に引き続きお願いしてございます。あとのメンバーについては組織あるいは団体から新規に出てきていただいております。

その内容の骨子、主なご意見をここに紹介させていただきます。西中学校区が、幼稚園3園、小学校3校、中学校1校という組織の中で一貫教育をする課題です。なかなか難しく、幾つかクリアしなければならない課題について、それぞれの幼小の代表が出しながら、幼小をまず固めて、中学校と接触するというをまず行っていくなど具体的なお話をいただいております。

それから、教育委員会と推進検討委員会、そして各中学校区の組織から、推進委員会の担当者が集まる連合協議会を今後進めていくことも必要ではないかというお話をいただいております。これについては、年度末に向けて、具現化を図るように考えていき

たいと思います。

2つ目、この夏季休業中に、本町中学校区から鶴巻中学校区に至るまで、すべての中学校区で、幼小中、あるいは幼保小中の合同研修会を開くことができました。

なお、鶴巻中学校区の学習会は、講師のご都合により秋に延ばしましたが、全面実施の今年の夏、全幼小中、場所によっては保育園の職員が一堂に会し、このような研修会を開催できたことは、一つの大きなステップと思います。今までの教育委員会会議における議論についても、大変ありがとうございます。その中で、進めていけば、各地区での課題もクリアになってまいります。それを一度集約する作業も、今年度下半期には必要になってくるかと思えます。

続きまして資料No.4「第24回はだの子ども野外造形展の開催について」です。例年11月の上旬に開催している、市民の日と並行する形ですが、今年度は、実行委員会の検討により、11月3日及び4日の午前中の2日間開催です。つまり、市民の日にあわせる形では1日展示を行い、翌4日の午前中展示を行います。これは、土日の関係やカレンダーの関係で、3日開催、4日開催、2日開催と変更していますが、子どもたちの作品を展示して安全に保管して返すということを優先すると、日にちに違いが出てくるところでございます。例年どおり、会場はみずなし川緑地です。

また、「小学生造形教室開設について」は3年ほど前から行っております、それから幼児制作コーナー、非常に好評でございます。今年度も、小学生造形教室については土屋先生をお呼びし、紙粘土の教室、幼児制作コーナーについても、ボランティアの生徒等のご協力をいただく中で、「作って遊ぼう」、かざぐるま、ぴよんぴよん人形、お面製作等をやっていきたいと考えております。

資料No.5「のびゆくみんなの交流会」は、特別支援学級に在籍する児童生徒が総合体育館メインアリーナに集まり、それぞれ交流を深めながら体を動かすねらいで毎年開催しております。

なお、特別支援学級の子どもだけではなく、秦野総合高校の生徒の皆さんにも南が丘高校時代より、参加していただいております、高校生との交流という意味合いも持っているものです。

これについて、交流会のアンケートを2種類つけさせていただきました。最初に「学習交流会アンケート集計I（学校用）」でございます。これは、毎年学校にアンケート調査をして、その内容等の吟味をする資料として行っているものです。昨年度末には、それに加えて全保護者にアンケートを行いました。昨年度、教育

委員会会議の中で、この交流会を土日に開催し、より多くの参加を求める環境設定をしてはどうかというご意見をいただき、その議論等も踏まえ、保護者の意識を聞くため行いました。

開催曜日については、金曜日開催が「良い」は、アンケート146件回収の中で138件が現状を肯定しております。また、「改善すべきである」が8件ありました。これをもう少し追求していきますと「観覧する人が増えることによって、敏感な子どもたちが落ちつけなくなるのではないか」という意見、これに類似する意見が非常に多いことを現場の先生方から聞いております。

もう一つ、心情を考えると難しい部分がありますが、休日開催になると観覧する人が不特定多数の人たちになり、それが負担となると考える保護者の意見がありました。

この学習交流会は、以前は、水曜日や木曜日の週半ばで行っていた時代がありました。また、保護者からの希望もあり、週末にしてほしいとのことで、ここ数年は金曜日に開催しており「結構疲れるので、次が休みだとありがたい」という中で、今回は、土日についても問うたわけですが、当面は金曜日開催という形で推進していきたいと思っている次第です。

資料No.6「中学生英語スピーチコンテスト」でございます。8月定例教育委員会会議において、口頭ですが坡州の中学生派遣研修事業とスピーチコンテストとの関係をお話しさせていただきました。中学生英語スピーチコンテストの開催チラシと資料の募集チラシをつけております。9月18日、日曜日に、文化会館小ホールを使い、15名参加により開催されます。前回も申し上げましたが、1位から8位まで表彰され、かつ、いらっしゃった方々が講評を行い、それについて表彰するという賞もあります。教育委員の皆様も、ご都合がつけば、顔を出していただき、子どもたちの様子を見ていただければ幸いです。

資料No.7「夏季休業中の教育研修事業について」おかげさまをもちまして、研究所は、7月25日の情報モラル研修会を皮切りに、8月22日の研究発表会に至るまで、各種研修会を開催しました。開催することはお知らせしましたが、これは開催結果でございます。特に参加者のアンケート等をご紹介させていただきますが、「公開講座」のアンケート結果については、『大変満足』と『満足』をあわせた割合92%という項目をつけさせていただいております。また、「教育研究発表会」のアンケート結果についても、「大変満足」「満足」の2項目を合わせた数値を入れさせていただいております。これは、新総合計画の中の教育研究所

の事業の1つの目標値といたしまして、公開講座や研究発表会において、「大変満足」と「満足」の占めるパーセンテージを、現状では80%以上を目標にする。数年後は85～90%の評価をいただくような研修会にしていきたいという目標値を持っております。その関係で数値を入れさせていただいておりますが、今年度も、不登校の問題、東海大学の芳川先生の講演についても、92.0%と大変高い評価をいただきました。また、教育研究発表会も、幾つか内容によって濃淡がございますが、発表6のシンポジウムあたりでは、これも東海大学の平岡先生のご協力をいただいているわけでございますが、92.0%、大変満足が46.5%という高い内容です。今日的な課題を提示したシンポジウムでしたが、今の先生方や保護者の方々も一つの知的な面のニーズに合ったものではないかと考えられます。

最後に資料No.8「平成23年度新規採用教員宿泊研修会について」です。これは教育指導課と教育研究所の共催という形で行っております。新しく採用された1年目の教員の先生方には、夏休み、表丹沢野外活動センターで1泊の宿泊研修会を毎年行っております。この研修会についても、こういう形で行っているということを教育委員の皆さんにご理解いただきたいと思います。これは、やることについては行事予定でお示ししてきましたが、結果報告は今まで行ってきませんでした。こういう内容で地元の資源を使い、研修をやっていることをお含みおき願いたいと思い、報告資料の中に入れていただいております。内容については、ご覧になったとおりでございます。体験的な活動、座学、ふるさと秦野を知るためのクイズのような形での検定、それからファイヤーレクリエーションというような、幾つかのアラカルトの中で行われるという研修でございます。

何かございましたら、ご指摘をいただければと思います。

ありがとうございました。

(2)から(8)まであるのですが、(3)から(8)は、教育指導課及び教育研究所、教育指導課長が答弁する分野になるので、まず(2)だけ、次に(3)から(8)までやっていくということにしたいと思います。

まず、(2)の「本町中学校昇降口棟建築工事等の請負契約について」は、いかがでしょうか。

図面の件ですが、トイレの入口は外から利用されるということでお話があったかと思うのですが、これは内側から使えるというわけではなく、一度外に出て使う設計になっているのでしょうか。

望月委員長

内田委員

教育総務課長

昇降口棟の中にトイレを設置する必要性はありませんが、学校開放等で、外用のトイレが必要になります。水無川側から入って、左側にプールがございます。そのプールの一番北側に外用のトイレが設置してありますが、大分古くなってございまして、外用のトイレをどこかにつくらなければいけないので、今回の昇降口棟の設置に合わせて外用のトイレをつくるというようなことです。

内田委員

ありがとうございました。

望月委員長

ほかにどうでしょうか。

—特になし—

望月委員長

それでは、(3)から(8)まで一括して、ご質問、ご意見等を受けたいと思います。いかがでしょうか。

加藤委員

「夏季休業中を中心とした幼小中一貫教育の取り組みについて」ですが、主な意見を読ませていただき、かなり内容が実務的、具体的なことに触れられており、確実に議論が深まっていると感じさせていただきました。

2つお伺いしたいのですが、2月に行われた検討委員会では、保護者に対してどのような情報公開をしていくのか、どのように理解を深めていただくかという意見が保護者側からの意見が出ていたかと思います。今回は、ほとんど学校、教育委員会関係からの実務的な内容に終始している気がするのですが、書き切れない部分でそういうお話が出たということがあったのかということが1点、もう一点、関連しているのですが、先ほど課長からお話があったように、委員の顔ぶれが、望月委員長を初め、再任の方が多い中で、PTAの関係者2名が新しく入ってきたということで、これまでの議論の流れを理解していないと発言もしにくいのかなという推測をするのですが、この2名に、これまでの経緯の説明とか、理解を深めていただくために対策はとっていただけるのかという確認です。

教育指導課長

ありがとうございます。

2月の検討委員会では、PTA組織とか保護者との連携を深める方向性をとることのご意見をいただき、実は、5月の幼小中一貫教育の連絡会議を、連絡会議を各9中学校区の代表を呼ぶときに、PTAの連絡協議会にも連絡し、参加を促したところ、P連の会合とかぶってしまい、それができなかったことがございました。今年度も、幼小中一貫教育の研修会とかは保護者にも呼びかけていくという考え方を引き続きやるということでの意見は出ております。また、飯田P連会長からもそれに即したご発言がありました。野々山幼稚園のPTA連絡協議会の会長との話では、

前の会長さんが、一度、幼P連の学習会で私ども教育委員会のメンバーを呼んで学習を深めるような機会をという話をここでさせていただいております。この記録には載っていませんが、そういう話題が出たということを一応ご報告いたします。

野々山委員、飯田委員に特別に今までの経過についてお話をさせていたっていませんが、幼小中一貫教育の取り組みについて、最初に、1ページの「(5) 次第」をごらんいただければ、エの「協議」、「(ア) 秦野市における幼小中一貫教育の取り組みについて」という項目がございます。これは、秦野市の幼小中一貫教育はなぜ行うか、どのような目的で行うか、そして、どのような道筋で来たかということ、パワーポイントで約30分説明させていただいております。そのような中で第1回目、坂間ほりかわ幼稚園長も会自体は初めてでしたので、皆さんとの情報をなるべく共通化できるように図ったということがございます。

望月委員長

今、保護者の件が出たのですが、この夏休み、あと1カ所は10月なのですが、それぞれ研修会が開かれて、保護者や地域の方に、各中学校区に出席の呼びかけ、案内はしたのですか。

教育指導課長

残念ながら、保護者に呼びかはしておりません。どちらかというと、幼小中全体がそろっている初めての地区がほとんどでございます。渋沢地区はゆとりがあったかもしれませんが、今回の夏の研修会では反映されていないというのが実態でございます。

望月委員長

いろいろあると思いますが、これは相当時間をかけてやらなければならない問題ですが、保護者あるいは地域の方への呼びかけというものにも十分に留意してほしいと思います。

高橋委員

ほかにいかがでしょうか。

資料No.5「のびゆくみんなの交流会」についてですが、これを読ませていただき、大変好評だと聞きました。総合高校の生徒たちのボランティアがすごく評価され、よかったと思うのですが、何の交流かという問題提起も出ています。あと、平塚養護学校の生徒たちを呼んだのに、出番が少ないのではないかという意見もございました。また、保護者の意見は、本当に続けてほしい事業であるという人がほとんどだったので、指摘されている面をもう一度考え直し、さらによい交流会にしていきたいと思います。質問したいことがあります。実行委員に特別支援教育研究部と特別支援学級研究部という所属部が書いてあるのですが、両者の違いはどうなっているのでしょうか、教えてください。

教育指導課長

小学校特別支援教育研究部の母体となっているのが小学校教育研究会及び中学校教育研究会でございます。小学校の小教研の組

望月委員長

織の名称は特別支援教育研究部になります。中学校の名称はこのように形で学級研究部になってございます。内容、組織的な位置づけについては、小学校も中学校もほぼ同じと考えています。

よろしいですか。

加藤委員

ほかにいかがでしょうか。

同じく「のびゆくみんなの交流会」について、この事業に関してというよりも、アンケートの取り扱いについてです。かねてから土日開催を推奨して意見もさせていただいたのですが、課長の報告にもあったように、アンケートの結果、金曜日開催が圧倒的に多いということで、私にとってかなり衝撃的なアンケートで、実際に聞いてみないとわからないということ非常に痛感いたしました。

数年に1回、保護者にアンケートをとっているというお話だったのですが、この交流会は、一昨年は新型インフルエンザの影響で中止と思うので、このアンケートを私が見るのもこれが初めてですので、かなり細かいところまでアンケートに答えていただき、我々にとって非常に勉強になる、この事業のみならず勉強になるアンケートと思うので、できれば継続していただきたいと思います、見せていただければと思いますのでお願いします。

望月委員長

よろしくどうぞ。

教育指導課長

はい、わかりました。

望月委員長

ほかにいかがでしょうか。

内田委員

英語スピーチコンテストですが、応募者15名のうち男子生徒が2名ということで、女子生徒がすごく多くなっていますが、そのうち男子1名は私立学校ですね。このあたりの現状はいかがなのでしょう。やはり女の子のほうが英語が得意だったりするのですか。

教育指導課長

これは、所管が市民自治振興課で、学校を通さず、一般公募という形です。このような結果になったのは、昨年度は坡州の研修に中学生を各中学校から2人派遣という事業を開催いたしました。その際も女の子の希望が多かったです。部活に対してスポーツ系を男子生徒は多くやっているため、英語に興味を持つ子どもの絶対数が少ないと言えるかもしれません。ただ、男の子も英語の事業のきっかけに対して前向きには考えていかなければならないと思いますが、現状としては、この2年間を見ると、女の子たちの興味をそそる対象ではないかということ言えると思います。

内田委員

男子のほうが部活のスポーツ系とかは多いのですか、数字的に。

教育指導課長

内田委員

望月委員長

女子の場合、ブラスバンドとかが多いですが、スポーツ系になりますと男子のほうが絶対数は多くなります。

わかりました。ありがとうございました。

それぞれアンケートをとっていただき、客観的な数字を示していただいていることは、我々は大変理解しやすく、感謝を申し上げたいと思うのですが、アンケートをとる際には、3つの要素が必要なのですね。対象者はだれか、それから実施時期、あるいは、1週間であれば期日、それから回収率は何パーセントか、ここはアンケートの必要要素であり、入れておくということが大事です。交流会など、その他いろいろなところでアンケートをとっていくわけで、生かしていただくとよろしいかと思えます。

アンケートの中で、教育研究所が行ったシンポジウムは第29回になるのですが、僕も過去何回参加しているかもわからないのですが、20回は出ているのではないかと思います。このシンポジウム、今年は非常に盛り上がりましたね。これは、テーマが時宜を得たものだというタイミングのよさもありますが、みんなそれぞれ先生方もいつになく危機感を持っているということもある。それから、教育指導課長のコーディネートの方が実に上手でしたよ。いろいろまとめながら次に持っていき、それがオーディエンスから上手に引き出せたと思います。うまくまとめていられ、我々も非常に聞きやすかったです。そういうテーマの設定のタイミングがタイムリーだったこともありますが、司会をやった課長の腕前も大きく影響しているのではないかと思います。そういう面では大変感謝しています。

それから、新規採用研修会で、秦野を知ることでしたか、ふるさと秦野検定ですね。これを見たときに自分の新採用研修を振り返りました。当時、県外からの教員が多かったので、市のバスと記憶していますが、秦野の名所・史跡めぐりがありました。僕の記憶で、弘法大師がいかに秦野と関係があるのか、弘法の清水に行って思いましたね。それから、大根に行って、有名である前田夕暮が秦野の生まれであるということも初めてわかったのですね。改めてこれを見て、県外から来ている皆さんは、この検定などをやりながら、いろいろ説明して、秦野市を愛する気持ちなどがより深まるのではないかということ、自分の体験を通して感じました。ありがとうございました。

教育指導課長

望月委員長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょう。

教育指導課長、この研修会するとき、どこかのコマで秦野の教育

教育指導課長	<p>目標を、説明だけでも、教育目標を皆さんに知ってもらうような、そんな配慮はなされていたでしょうか。</p>
望月委員長	<p>定かではないのですが、実は5月に、新規採用教員と転任採用教員を集めた研修会を、公民館を借りて行います。そのときには、教育長のお話や、さっきの服務の話とか、この中に、理念の説明をする時間がございます。ここ数年で毎年扱っているかは、はっきりここでご報告できないのですが、そういう時間を活用することは可能と思います。</p>
望月委員長	<p>あらゆる機会で行っておくことがいいと思います。ほかにどうでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>—特になし—</p>
教育総務課長	<p>それでは、ないようですので、次に議案に入りたいと思います。本定例会には2件の議案が提出されています。「議案第26号 平成22年度秦野市一般会計（教育費）決算について」の説明をお願いいたします。</p>
	<p>お手元にお配りさせていただいております「議案第26号 平成22年度秦野市一般会計（教育費）決算について」、説明をさせていただきます。</p>
	<p>平成22年度の教育費に係る決算については、地方教育行政法第90条の規定により、教育関係の歳入歳出予算、また、教育関係の条例等、議会に議案の提出をする際には、教育委員会の意見を聞くという条項がございます。それに基づき、意見等を求めるものでございます。</p>
	<p>内容については、議会に提出します決算書の教育費の抜粋をさせていただいたものでございます。1ページ目が教育関係の総括表、3ページ以降が実際の議案になります決算書となります。21ページから、主な施策の成果と報告書、21ページから24ページまでにその概要が書いてございます。25ページから最後の54ページは、それぞれ主な個別の事業の成果について記載をさせていただきます。</p>
	<p>1ページ目の総括表でございますが、上段が教育総務部関係、下が生涯学習部関係です。平成23年度から組織が一本化して、教育部となりましたが、平成22年度でございますので、教育総務部、生涯学習部ということで、平成22年度の事務局の体制に合わせた総括表となっております。</p>
	<p>まず、上の教育総務部でございますが、平成22年度の予算現額は38億6,313万3,000円、執行済額が33億2,0</p>

85万6,018円、不用額が1億1,250万1,982円、執行率については86.0%という状況でございます。

生涯学習部については、予算現額が13億4,100万6,000円、執行済額が12億492万1,087円、不用額は1億1,457万6,913円、執行率については89.9%という状況ということで、合計で52億413万9,000円の予算に対し、支出済額が45億2,577万7,105円、執行率については87.0%ということでございます。

一般会計全体に占めます支出済額の割合は10.5%、一般会計全体の約1割が教育費ということになります。

このほか、教育費については、この項目でございますように、9款が教育費になります。それを項で教育総務費、小学校費、中学校費、幼稚園費、社会教育のところでは社会教育費、スポーツの関係もございしますが、保健体育費ということで、6つの項目に分けて、3ページ以降、それぞれ備考欄のほうに細かい事業の内訳等を科目別に記載させていただいております。

それでは、この総括表についての質問はありますか。

教育総務部の中学校費、学校建設費の執行率が40.0%、小学校費の4番も57.6%とパーセンテージの数字がかなり低いのですが、複数年次の予算が組まれて予算現額に入っているという理解でよろしいのでしょうか。

小学校費は、決算書の9ページでございますが、学校建設費で予算が1,035万円ですが、執行済額が596万4,000円、438万6,000円の執行残でございます。これについては、34ページの「(32)小学校耐震対策事業費」、これがすべてでございます。そんな形で、耐震の設計委託を行いました。当初は1,000万円の予算をとっていましたが、設計委託の予算のとり方が多かったということです。実は、平成21年度のベースで予算をつくるわけですが、設計委託の単価自体が落ちたということです。

それともう一つが11ページであります。中学校費学校建設費、7億1,430万8,000円で、執行額2億8,603万9,473円とでございますが、残額の4億2,038万円を逓次繰越ということで翌年度に送ってございます。

それについては、38ページの(47)になります。先ほど昇降口棟のご説明をしましたが、平成22年度については、平成22年度、平成23年度にかけて、7月に完成しました新校舎棟の建設をさせていただきました。その新校舎棟の建設費が当初の予

望月委員長
内田委員

教育総務課長

望月委員長
内田委員
望月委員長

算で11億円ほど見ていまして、契約額7億1,500万円と大分落ちまして、平成22年中の支払い2億6,000万円で、新校舎棟建設事業費の予算全体に比べて契約額も小さかったことと、平成22年年度中に継続費の支払い予定額7億円程度見ていたところが、校舎棟だけは2億6,000万円で済んだことで、大分契約額が落ちました。2カ年事業の平成22年度の間接払いの請求額も大分低かったこととございます。

よろしいでしょうか。

はい。

ほかにどうですか。

教育総務課長

執行率が87.0%はどのように評価していますか。教育費の合計がありますよね。この数字をどう評価していますか。

この執行率、内田委員がご質問されたように、学校建設の部分が大きく、使わなかったのではなく、より効率的な契約ができたという部分で落ちたということとあります。あと、教育費の1の2、2,700万円ほど不用額が出てございます。9の2の1学校管理費も1,000万円ほど出てございます。こういった大きな部分で出ているのは、事業費の執行残ではなくて、人件費の不用額による部分が大きく、また、スポーツ振興財団に委託をしている事業費が1,000万円単位で減ったこと、それぞれのスポーツ関係の契約行為が大分落ちたというようなこととございますので、87.0%ということは、目的としていた事業が1割程度残ったということではございません。より効率的な執行ができた、また、人件費等で見積もりの部分で多少残が出たというようなことで、やるべき教育関係の事業は十分行ってきたと考えております。

望月委員長

ありがとうございます。

保健体育総務費ですが、社会教育費でも92%以上になっていますが、保健体育費の総務費が79.3%ですが、これはどういうことでしょうか。全部使うということはもちろんいいことではないのですが。

教育総務課長

決算表の中の19ページになります。それぞれの欄が、保健体育総務費分2,493万2,982円ですが、19ページの1の不用額の合計が2,493万2,982円という数字になってくるわけですが、3番の職員手当等1,000万円、これは先ほどの人件費の見積もりよりも多めに取ったということ、19の負担金、補助及び交付金も1,300万円ほど残ってございますが、3,300万円の予算で執行が2,000万円となり、1,300

望月委員長
教育長

0万円残っていることですが、スポーツ財団のほうに委託をしている委託料が1,300万円ほど浮いたということです。

もう一点、2番目の体育施設費4,600万円ほど残っているのですが、13番の委託料でございます。2,300万円ほど不用額として残ってございます。これについても、スポーツ施設の維持管理契約、委託契約などの効率的な執行といいますか、低い価格で維持管理・委託等ができたところ、2,300万円ほど残ったという内訳を聞いております。

はい、わかりました。

職員手当というところ、保健体育総務費不用額1,000万円出ています。市の予算は、毎年9月、10月から予算を積み上げ、最終的には翌年3月に議会で確定します。その段階では、4月以降の人事異動が毎年12月に補正で整理をしていますが、それでも全部整理し切れない結果としてこういうものが残ってきます。通常ですと、人事異動を予算上、例えば人事院勧告など、そういうものを全部考慮して移動する結果と理解をしていただきたいです。

望月委員長
教育長

人件費は常に多目にとっておくわけですね。

いや、積算は同じです。その時点での職員を、人事課が教育費は幾らと指定できますから、そこにいる職員の金額で決まります。

望月委員長
教育長

人事課で決めるのですか。

人事課で、この数字の計算を全部まとめてやります。教育費が幾らで人件費をとということです。

望月委員長

ほかにいかがでしょうか。

—特になし—

望月委員長

それでは、「議案第26号 平成22年度秦野市一般会計（教育費）決算について」、原案のとおり可決することにご異議はございませんか。

—異議なし—

望月委員長

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

続きまして、「議案第27号 平成23年度教育委員会教育行政点検・評価報告書について」、説明をお願いいたします。

教育総務課長

続きまして、「議案第27号 平成23年度教育委員会教育行政点検・評価報告書について」でございます。この点検・評価報告書については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により、点検・評価を行い、議会に報告し、広く市民に公開することになってございます。5月の教育委員会会議から毎回、点検・評価についてご協議をいただき、8月1日には学習

会を開催させていただき、委員の皆様にご点検・評価をしていただき、取りまとめをすることができました。

前回、8月定例教育委員会会議のときに、一度案を出させていただきましたが、その中で、用語の統一「取り組み」「安心・安全」の表記の仕方、また語尾の用語の統一等を図らせていただくとともに、9月いっぱい、各委員から最終確認ということでご意見をいただき、まとめさせていただいてございます。既に、その内容はお目通しいただき、語尾等の修正はしてございますが、内容的な部分は基本的には変わりございません。特に、主要な施策の個別事業の評価については、49事業評価していただき、A評価が37事業、B評価が12事業と変わりはありません。

今までご提示していない部分は、56ページになりますが、第4章でございます。「学識経験者の知見」で、県立保健福祉大学小林教授に教育総務関係の総合的な評価ということで評価をしていただいております。社会教育、生涯学習の関係については、東海大学逢坂先生に評価をしていただいております。小林先生は、教育委員会の活動状況や総務部門ということで、総論的な総合的な評価、教育総務に関する総合的な評価、今後の取り組みに対する意見などもいただいております。逢坂先生は、比較的、一つ一つの事業について知見を、総合的な評価をしていただいております。

最後に「おわりに」という部分で、先生の評価の部分を受け、その辺の知見でお示しいただいた部分について、触れさせていただいていることとさせていただきます。

例年、9月上旬に議会は始まっていますが、市議会議員の改選の関係で、9月中旬以降に開会日がずれています。例年、文教福祉常任委員会の委員が7名ほどいますが、そちらにご説明をさせていただき、各委員に配付する手続になっています。議会の構成が変わりますので、常任委員長が決まらなると確定しない部分はございます。いずれにしても、ご議決をいただければ、市の部長会という庁議がございますので、そこで同じようにご説明をさせていただき、9月の定例議会の期間内に提出をするというような形をとりたと思っています。

市議会議員に全て渡しているのですか。議会対応についてのプロセス等を教えてください。

提出の方法は市町村ごと異なりますが、秦野市は、9月議会が開会し、先ほどご審議いただいた決算議会になりますので、決算議会の参考資料にしたいという議員の思いがあるため、決算議会

望月委員長

教育総務課長

が始まる前に各議員のお手元に配るということを原則にしています。通常は、開会日があつて、1日あき、議案審議を行います。その日に各文教福祉常任委員7名に、事務局が説明させていただき、質疑を受けて、それが終わって同日に各議員に製本したものをお配りします。議会開会3日目に各委員のお手元にお配りし、それから1週間ほどで決算の委員会が始まります。

望月委員長

直接議員の意見をお聞きするのは、議案審議のときにお聞きするだけなのですか。このことについての意見を聴取するのは議案審議のときだけですか。

教育総務課長

議案審議で、点検評価を議案として上げるわけではございませんので、提出をするだけになります。議案審議を行う日程の日に、議案審議が終わった後に、各常任委員に集まってお聞きいただき、報告を行い、その後に各議員にお配りしますので、議案として、質疑をして承認をいただくような手続はございません。

教育長

点検評価自体が議決案件ではないものですから、議案という性格ではなく、法律上議会に提出するものです。ただ、議員から内容について質問等があれば、説明を行います。教育総務課長が言いましたように、議案審議が終わった後、常任委員会委員に説明を行い、その後に常任委員会会議で、この内容について質問される委員はもちろんいます。質疑応答関係は、説明のときと、常任委員会が開催されたときに、もう少し詳しく説明を求められることはあります。

望月委員長

大体わかりました。大変ですね。

第1回目のとき、12月にこれを配付したところ、もう少し早く配布してほしいとのことでしたね。

教育指導課長

そうです。第1回、最初のときは、議員が全員いるところで、教育長を初めとした執行部課長が、簡単に説明を申し上げるということをやりました。その内容についての詳しい質問はその場では全くなかったのですが、もっと早い時期にという要望があり、その次の年からは、9月議会に合わせる形になりました。

望月委員長

いかがでしょうか。

教育長

最初のときは、初めての点検評価ため、議員全員の前で説明を行いました。議会への報告等は、議員連絡会と全員協議会があり、議員連絡会はあくまでも報告だけです。全員協議会は質疑があり、最初は全員協議会にかけましたが、次回からはそういう形ではなくてもよいということでした。

望月委員長

各教育委員、秦野の点検・評価は県内でもよくできているんですよね。非常によくできています。

望月委員長

教育総務課長

ここでは「現場」と使っているのですが、話し言葉では「現場」でいいのですが、書き言葉になると「教育現場」「学校現場」あるいは「学校教育現場」という使い方が表記上はよろしいと思います。

それでは、「議案第27号 平成23年度教育委員会教育行政点検・評価報告書について」、原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

—異議なし—

次に、「その他」の案件ですが、まず、「秦野市役所節電実行方針に基づく取組状況（8月分）について」の説明をお願いいたします。

8月定例教育委員会会議のとき、取組状況7月分ということで、教育総務課案件でご説明させていただきました。今回は、8月分節電取組状況でございます。前回、全体の使用量と料金も示したらどうかとお話ございましたので、あわせてその一覧表もつけさせていただきました。

8月分の実施状況でございます。7月分、15%以上の目標達成という部分、特に高圧受電施設では、8月の未達成は本町小学校と西公民館の2件でございます。低圧受電施設も、幼稚園については14園のうち2園の未達成という結果でございます。

よく「夏休みになったので、当然15%節電は可能」というご意見を言われる方がおられるのですが、前回もお話をさせていただきましたが、7月分は7月1日から31日の期間ではございません。例えば、6月上旬から7月上旬までの期間が大体7月分、8月分は7月上旬から8月上旬までの間です。この8月分が節電の取り組みとして本当の数字の部分が大いのではないかと、事務局のほうでは考えてございます。

また、前回もお話しさせていただきましたが、デマンドは、一遍に何かを使うというような部分でオーバーしてしまいます。特に西公民館、今回は削減率5.3%ということで、昨年、空調等の整備を行う中で、燃料を重油から電気に変えたため、電気使用量が多くなっている状況もございます。いずれにしても、9月には15%達成するような形でできるよう指導を徹底していきたいと思っております。

もう1枚、横長A3の表でございます。使用量と電気料金が出てございます。例えば、7月の小学校の状況を見ますと、使用量については12.9%減っているのに料金は4.7%しか減っていません。同様の傾向が中学校でもありますが、8月に行くと、

小学校は使用量21.7%減、料金は18.3%減と、大体同じような数字になっております。実は、電力を料金にかえるときには、使用量にそのまま何円を掛けるというものではございません。過去10カ月間の中で一番ピークのところを定額料金みたいなもので計算します。どうも昨年度に比べ今年度が高いということ、燃料調整費というものが昨年7月と今年7月で比べると、もともと12円ぐらいのものなのですが、1キロワットアワー単位で1円程度違うことから、7月については使用量が料金に反映しませんでした。なぜ、8月は反映するようになったのかといいますと、最大使用電力量の基本料金を、節電を促すということで一律15%安くすることが8月から始まっています。そのため、比較的使用量と比例するような形の電気料金になっています。

最後に合計が書いてございます。図書館は、文化会館、総合体育館と一緒に部分にしてございますので、電気料金は相当大きな額になってしまっていますが、7月の最後の電気の合計としては、前年に比べて12.2%、お金にして166万円程度、減ってございます。8月は、同様に22.9%減りまして、金額としては328万円弱減ってございます。7月、8月を合計しますと500万円以上電気料金を削減できているというような状況でございます。

望月委員長
教育総務課長

これは今後どうするのですか。

今回の節電対策は7月1日から9月30日まで行うことになってございます。ただ、10月1日になったので、戻すものもあるかもしれませんが、基本的には、市民サービスや学校活動に支障のない範囲で引き続き努力を行っていきます。実は、夏場が電気を多く使うイメージが強いですが、冬場のほうが、ピーク時の電力が結構上がってしまいますので、冬場にもこういう対策をやるのかどうか。全国的な話になる部分もありますが、引き続き節電に努め、各施設では努力を引き続き行います。全庁的な話はまだ出ていませんが、教育関係施設では同様の取り組みを続けていくという方向で取り組んでございます。

望月委員長

どうでしょうか、ほかに。

それでは、ご意見、ご質問等がなかったら次に行きたいと思いますが、「市内公共施設等における放射線量の測定結果について」、説明をお願いします。

教育総務課長

市内の放射線量の測定についてです。8月定例教育委員会会議のとき、8月22日から24日の3日間で、東海大学の機械を借り、ノウハウ等を教えていただき、測定を実施した幼小中、生涯

学習の関係施設、公園等、全部で117カ所の測定結果の一覧で
ございます。幼稚園、小学校、中学校といたしますと大体0.03
～0.06マイクロシーベルトというような数値でございます。

この一覧で、図書館の「屋外の読書スペース」の地上5センチ
が0.10、これが一番高い数値でございました。

いずれにしましても、国等が示している屋外活動の制限値以内
になってございます。実は、「屋外の読書スペース」で隣接地を
再度測定しています。レンガタイル等は多少放射線量が上がる
という事例がありますので、隣地を測定した結果は0.04マイク
ロシーベルトという結果になってございまして、国等の基準から
しますと低い数値ですので問題はないという認識でございます。

また、学校、校庭やグラウンドの中央部分で計測をいたしました。
引き続き東海大学から機械を借りての測定は可能でございます
ので、各学校に、追加で測定する部分の希望があるかを調べ、
市の担当や東海大学とご協議させていただき、追加で測定する
ところについて、今後検討していく予定でございます。

この件につきまして何かありますか。

今の説明で図書館の数値がありました。通常、テストの点数
で100点取れば一番なのに、偶然70点だけ、周りが60点
だから1番であるのと同じように、職員に対して、とりたてて騒
ぐ必要はないということは申し伝えております。

それから、数値については、0.10マイクロシーベルトとい
うことで、ほかの数値に比べ、多少目立ちますが、とりたてて心
配する数字ではなく、市民からの問い合わせも今のところ一切ご
ざいませぬ。

測定を担当している部署に、再度検査を依頼しましたら、0.
07マイクロシーベルトという数値でございましたので、通常
の中で業務は進めさせていただいております。

市の職員に対し、放射能のことについて研修させていただきました。
その後、教職員に対しても同様の研修を行いました。その
時、コンクリートを含めて建物は、もともと放射能を出している
そうです。堅固な建物になればなるほど、放射能を出している
というお話があり、図書館の場合ですと、レンガタイルがテラスに
張ってあり、レンガタイルも放射能をもともと持っているもの
のことで、数値的にも心配ないというお話でしたので、現時点
では安心していいと判断しております。

先日、お話をしたと思うのですが、政党の県委員会が各学校を
全部調査して数値を出してございましたが、この数値とほぼ一緒で

望月委員長
図書館長

教育長

高橋委員
教育長

した。

政党が最初公表した数値のほうが高い記憶があります。

そうです。今回、市が測定した結果の大体3倍ぐらいの数値でした。ニュースで、市販の機械はあくまでも目安だと言っていました。そういう意味では、東海大学でお借りした機械は、神奈川県が測った機種と同じもので測っているということで、やり方も同じですから、数値上も変わっていない状況です。

望月委員長
高橋委員
教育総務課長

ほかにいかがでしょうか。

この数値は、学校や公民館で公表するのですか。

この数値自体は、お配りするようなことはしてございません。この結果は市のホームページのほうで公表しております。

教育長

秦野ニュースで市のホームページを見てくださいという形では報道されました。

望月委員長

ほかに何かありますか。

—特になし—

望月委員長

それでは、ないようですので、次に移ります。

「平成23年度教科用図書採択について」、説明をお願いいたします。

教育指導課長

今年度の教科用図書採択については、どうもありがとうございました。

現在、7月臨時教育委員会議事録が8月定例教育委員会議会で承認されましたので、こちらの公開及び教科用図書採択検討委員名簿、調査員資料等が、非公開でなくて公開文書の扱いになっております。採択についてはホームページにも議事録等を今日あたり掲載されますが、それ以外、私の手元に、4名ほど公開請求が来ております。まだまだ興味関心が高い現状でございますが、そのような中で、手元にある神奈川新聞7月25日と申しますのは、臨時教育委員会会議を開催した日でございます。つまり、あの中学校の教科用図書採択を議決した日の朝の神奈川新聞に、実はこういう記事が載りました。簡単に申しますと、かながわ市民オンブズマンが「無記名投票で行うのはいかがなものか」とのことで、表現をお借りしますと、「各委員の責任を不明確にし、事実を闇に葬る極めて無責任な行為」とであると指摘の記事がありました。かながわ市民オンブズマンの組織自体は、この資料の2枚目にオンブズマンのホームページからそのまま掲載させていただいておりますが、この団体から添付している要望書が秦野市にも届きました。

なお、このオンブズマンの指摘対象となった教育委員会は5教

育委員会でございますが、その中で横浜は記名投票に変更、大和、海老名は挙手という方法に変更、座間は、秦野同様、無記名投票という今年の実績でございます。

これについては、今度、教科用図書の採択は3年後になります。3年後の小学校の採択のときに議決方法が議論になるかと思いますが、本年度は、出版労連からの要望書の中にも含まれており、この議論では「それぞれ議論を深めた上で投票するのだから、現状でよい」という方向性が出ていたことを受け、無記名投票という形で行った経緯がございます。3年後にもう一度このやり方を確認することが必要と思いますが、採択業務がほぼ終わった中で、こういう現状があること、皆様のご意見をお聞かせ願えればありがたいということで、提起させていただきます。

望月委員長

どうでしょうか、意見等がありますか。

県内の市町村の方法、記名とか挙手とか無記名とかということのはわかるのですか。

教育指導課長

横浜、大和、海老名、座間は、直接ヒアリングを行いました。集計結果の中に、オンブズマンの調査に集計結果がございまして、内容によってはさまざまですが、おおむね教科用採択については、先ほどの5つの市が無記名投票です。多いのは、挙手採択が比較的多いです。秦野市教育委員会においても、以前、平成16年度までは、議論を深めて、議論の結果、委員長が意見を伺い、決めたという経過がございました。そのときは、やはり、一人一人の意見、雰囲気、流れの中で決めるのではなくて、明確にしたほうがいだろうということで、平成17年度から現状のような無記名投票になった経緯がございましたが、現状の中でも、場の雰囲気から委員長が取りまとめ「では、これでいきましょう」という教育委員会も多くあると聞いています。

望月委員長
教育長

どうでしょうか。

こういう要望書が来たので変更するという趣旨ではなく、今回の教科書採択に当たり、それぞれの思いがあって、その上で実施した結果です。それを記名投票あるいは挙手かは別にしましても、この場所で「私の考えはこうです」という採決のとり方を行ったとしても、何か影響が出るかということ、影響が出ない気がします。教育指導課長の話のように、3年後に向けて時間はありますから、議論も少し重ねていただき、どういう方向がいいのかということをご検討いただければと思うのです。

ただ、挙手あるいは記名投票による採決に何か問題が起きるかどうか、それぞれの委員の意思がきちんと固まっていたいてい

望月委員長

教育指導課長

望月委員長

図書館長

れば、それは何ら変わらないでしょう。事前にわかってしまい傍聴者からの圧力がかかること、あるいは何らかのアプローチがあることは問題があると思いますが、そういう問題がなければ特に問題ないと思います。

今のところ、特に社会については、市民からの問い合わせ等が今までありましたか。

7月臨時教育委員会会議後に1名の市民から電話がありました。が、それ以外はありません。

それでは、他にその他はありませんか。

今年で5回目になる全日本ジュニア短歌の結果がわかりましたので、速報という形で皆様にお知らせをしておきます。

10月に正式に詳細をお知らせしたいと思いますが、今年度で第5回になる全日本ジュニア短歌の結果については、お手元の資料にございますように、全国の応募作品数が6,700に達します。本市からは1,500名、昨年は500名、一昨年も1,500名応募いただきました。昨年は図書館で夕暮の短歌大会があり、通常は大人対象ですが、子どもさんにも枠を広げたことで、こちらへの応募が少なかったようでございますが、今年度は通常の応募作品数に戻りました。

表の中で網かけがしてある作品は全部で21首ございまして、裏面にそれぞれ生徒の学校名と名前を後ろに載せさせていただきました。この21名については、それぞれの学校に表彰式の招待状が届いております。表彰式については、9月17日の土曜日の午前中に、明治神宮の参集殿で表彰式が行われるということでございますので、皆様にお知らせをいたします。

なお、入賞のうち小学生の部の入賞作品の一番上の2首、選者賞がございまして、過去、秦野には入選者がございませぬので、今回初めて選者賞の入選者が出られた。

選者賞は、選者9名いらっしゃいますが、小中あわせた中で9名の方が選ばれ、本市の小学生2名が選者賞に選ばれたということでございます。皆様に唄の内容と、堀川小学校の生徒2名に選者賞でございます。学校の先生方も非常に協力的で作品の後押しをしていただきました。

望月委員長

すごいですね。

図書館長

今度、定例園長・校長会で報告するのですか。

望月委員長

そこでも報告をさせていただきます。

図書館長

明治神宮にはだれが行くのですか。生徒ですか。

明治神宮の招待者が網かけの21名です。招待状が学校を通じ

望月委員長

て届いています。何人が出席されるかはわかりません。

図書館長

そうすると、それに随行で市外につき1名ということは、学校の教員が1名とかではなくて、本人ということなのですかね。

今日、結果が分かりましたので、そこまでわかりません。ただ、昨年は、選者賞はございませんが、秀作賞が秦野市内で3名でしたので、個々で行っていただいているようです。今回も、個々に行っていただく形になると思います。また、全員の方が出席されるかどうか、学校に問い合わせがあると思うのですが、図書館としては何とも、まして土曜日は職員が全員出勤になっておりますので、なかなか難しいかなと思っております。

望月委員長

タウンニュースのまほろば通信でお知らせをすると思うのですが、図書館のほうでもなんかに載せるような。

図書館長

市では、できればタウンニュースに、歌の内容まで載せていただけるかどうかはわかりませんが、短歌は秦野の貴重な財産だと思いますので、対応したいと考えております。

望月委員長

よろしくどうぞ。

教育長

ほかにありますか。

1点いいですか。

望月委員長

実は、教育委員会ニュースの1ページ目についてです。

教育長

耐震化ですか。

耐震化です。秦野市の耐震化率は葉山とともに91.7%と神奈川県内で最も低かったという表記になっていますが、平成7年の阪神淡路大震災の後、当時、国の基準で、3階建て以上の建物について、調査を行い対応するように通知がありまして、平成8年から平成12年までの間に、耐震化について秦野市は5年間で工事を行いました。それ以降、1階建て、2階建ての建物についても一部耐震化を行っています。その後、耐震化の基準の読み方が異なり、91.7%という数字が出てきましたので、その部分の説明をさせます。

教育総務課長

実は、左側の囲みの記事の2段目から、「一方、未達成の自治体は9市町村残っていて、耐震化率が秦野市と葉山町がともに91.7%で最も低い」というような記事になってございます。

秦野市は、昨年94%ぐらいですので、悪くなっています。なぜかといいますと、秦野はほかの市町村と異なり、二次診断といまして、図面で構造を見て耐震性のあるなしを判断するだけではなく、コンクリート強度なども含めて、実際に現場で詳細な診断調査を行っています。

その関係で、平成22年度に、新たに渋沢小学校の4棟と以前

から耐震性の確保が必要とされた5棟を合わせて9棟となり、その結果、耐震化率が91.7%になったということです。今年度に、本町中学校は7月に新校舎が完成したのと、その前にあった校舎を壊しましたので、2棟減っています。あと、末広小学校と西小学校は3棟あるのですが耐震改修を行っていますので、5棟の耐震化ができます。また、渋沢小学校の設計をしておりますので、来年度で4棟すべて耐震改修を行ってまいりますので、平成24年度中には耐震化が終わるという状況です。

ただ、平成に入ったばかりのころ、1度耐震診断を行い、秦野市は1度必要なものは全部改修をしています。平成20年以前の平成17年にすべて終わり、残っているとこの診断をやり直していることで高い数字になっています。他のところは、平成元年ごろに行った診断の順番に直し、それが終わって100%ということですので、秦野市は、より詳細な耐震診断を行い、より安全性を確認して細かい部分の診断をやって危ない施設を発見しているため、この数値となっています。

教育長

平成12年までに耐震改修したため、国の補助基準が変わり、平成12年までの間は、校舎1棟全部やりますと、耐震は部分と内装も全て補助対象でしたが、平成13年度以降は、「耐震の箇所から横何メートル以内しか対象にせず、ほかは自費で改修してください」となったため、秦野市は、そういう面では、早くやった分、補助が多くもらえました。ところが、教育総務課長が言いましたように、本町中学校の壊した校舎もですが、建築確認上、見た目が1棟でも、2棟として数える。2棟として数えますと、耐震率で差が出てきます。今年7月、この2棟を壊して1棟をつくりました。この調査自体がそれ以前ですから、反映されていません。そのため、耐震化率が一番悪いと出てしまいました。

内田委員

秦野市は全部で何棟あるのですか。

教育総務課長

109棟です。

望月委員長

小中学校ですか。

教育総務課長

小中学校の校舎と体育館です。

あとは、渋沢小学校だけになります。来年度改修しますので、平成25年の調査では100%になるだろうと。平成24年に100%になりますから、調査自体は平成25年の調査で100%になります。

望月委員長

では、終わっていいですね。

以上をもちまして9月定例教育委員会会議を終わります。